

平成 21 年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に本学を代表校とした取組「文化芸術都市京都の文化遺産の保存・活性化を支える人材育成プログラムの開発・実施」が採択されました。

1. 名称

「文化芸術都市京都の文化遺産の保存・活性化を支える人材育成プログラムの開発・実施」

2. 代表校及び連携校、関係自治体・経済団体等の名称

代表校名：京都工芸繊維大学

連携校名：京都市立芸術大学、京都産業大学、京都ノートルダム女子大学

関係自治体等：京都市

3. 概要

古都京都には、多くのユネスコ世界文化遺産及び 2003 年にユネスコが採択した「無形文化遺産の保護に関する条約」で明示された多くの無形文化遺産があります。また京都市では、京都の優れた文化・芸術を保存、再生、創造する取組を進めるとともに、文化芸術都市として創生することを目指し、2006 年に「京都文化芸術都市創生条例」を施行し、2007 年には同条例に基づく「京都文化芸術都市創生計画」が策定されています。

本取組は、上記創生計画を推進する**京都市との連携を基盤**に、京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都産業大学、京都ノートルダム女子大学の国公私立4大学がそれぞれの教育研究資源を集結し、京都の有形・無形文化遺産の保存・活性化を支える人材育成プログラムの開発・実施を通じて地域の活動に貢献するとともに、将来目標として、国際協力の側面から本取組により開発したプログラムを京都から世界に発信するものです。

1) 目標

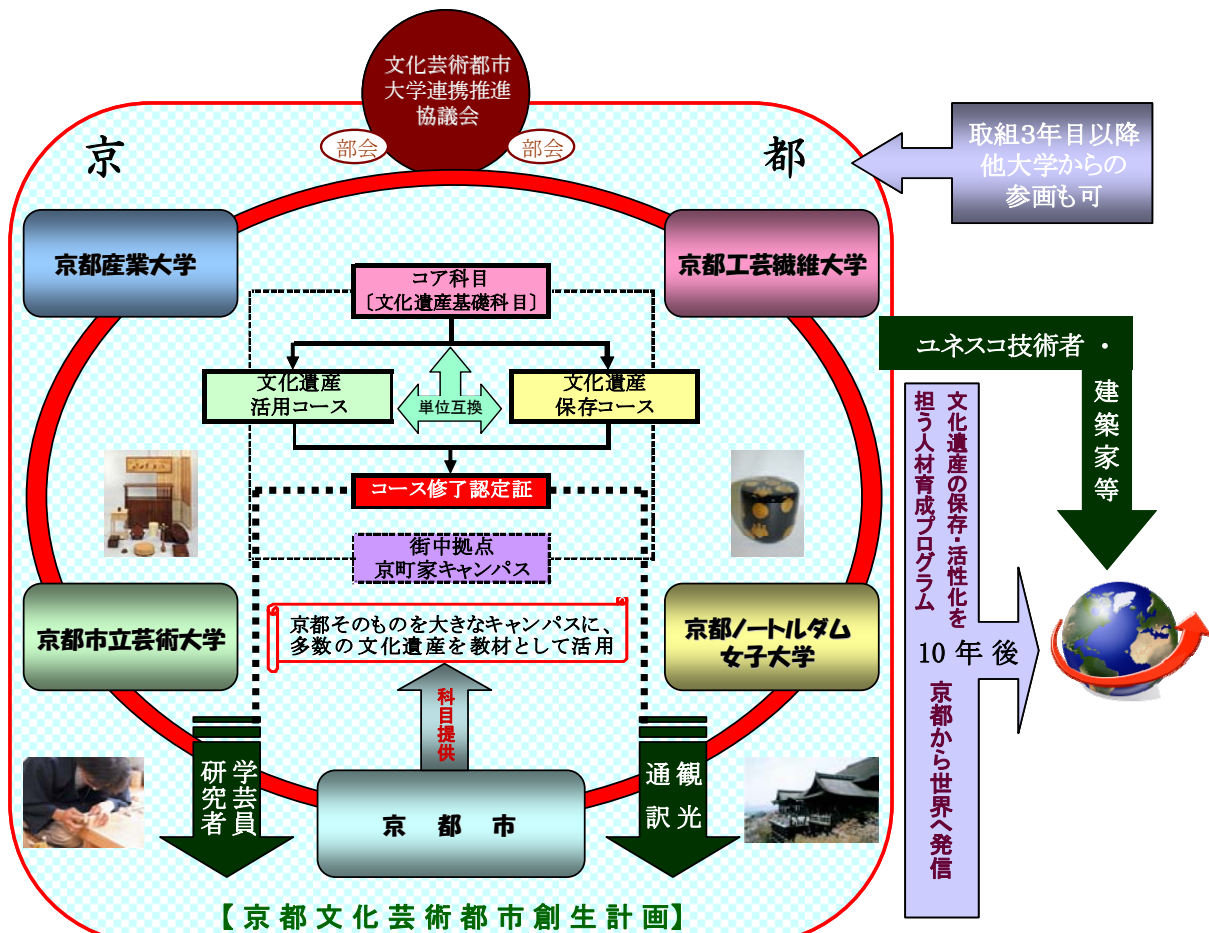
本取組によるプログラムの開発は、文化・芸術を保存、再生、創造する分野において、京都のみならず日本の他地域や国際的にも活躍できる人材育成を視野に入れることが可能となります。つまり、この人材育成プログラムは、学生たちが学び、行動することが、そのまま他者のために役立つという構造になっており、将来的(10年後)には、地域貢献から国際貢献へと、京都から世界に発信できるプログラムとし、ユネスコをはじめ世界で活躍できる人材を育成することを目標としています。

2) 内容・特色

この取組は、京都市及び4大学の連携により、「文化遺産に関する基礎科目」(教養教育科目と言語科目で構成)をコア科目として設置し、4大学の学生の専門や目指すキャリアを考慮して、観光、通訳を目指す学生や伝統文化を活かした建築家、デザイナー、起業家を目指す学生のための「コース(1)」と、コンサヴァター(保存・修復技術者)、上級学芸員、ユネスコ技術者を目指す学生のための「コース(2)」を設置して教育を展開します。

一つの大学では対応できない学生の多様な関心・学習要求に応える科目とともに、各大学間での単位互換を実施します。

既存の教育分野における各大学の教育研究環境の高度化を図るため、ユネスコ関係者や伝統工芸従事者などを招いての特別講義やセミナー、演習等をはじめとして、教育プログラムの共同実施や研究交流を通じた学際研究の推進など、特に「有形・無形文化遺産の保存・活性化とその展開」に関わる知の拠点形成を目指すものです。



→ は、学生のキャリアパスを表す。

3) 具体例

- 古都京都の素晴らしい日本独特の文化＝茶道(今日庵)や伝統工芸(金彩、京友禅、清水焼等々)の工房でのものづくり体験で、伝統工芸の技と美を学びます。
- 国籍・分野・年次を超えたグループワークで、異分野・異文化リテラシーを身につけます。
- 地域における知・美・技を学ぶことから、新しいものづくりを提案します。
- 伝統工芸を先端技術に活かすアイデアを考え、発表します。



鋳金具の工房見学の様子

京丹後にある数少ない手描きこいのぼりの工房で絵付け作業を体験(左)、学生発表会(右)



「Craft Concierge 京都」を結成。そのEXHIBITIONが平成20年9月に三条通界隈で開催された

